

「2017年3月期 業績予想および配当予想の修正」

説明会における主な質疑応答

1. F-LNG・海洋構造物事業の3プロジェクトにおける営業利益見通し悪化について

① 見通し悪化額である約160億円の内訳は？

・国内向け LNG 船用 SPB タンク 建造工事が最も大きく、悪化額の半分程度を占める。

② 見通し悪化要因と今後も悪化が発生する可能性は？

・3プロジェクトのそれぞれが工程または建造の最終盤に入ったが、この最終盤におけるリスクをこれまでの計画では織り込むことが出来なかった。

・今回の見通しでは、最終盤の段階で明らかになった、実施すべき作業や必要となる物量の全てを織り込んだ。一方で、これまでに実現・検証ができていない習熟効果による能率アップは織り込んでいない。したがって、今回の修正内容は、予想される悪化要素をすべて織り込んだ内容と考えている。

③ 見通し悪化額の中に、引渡し時期が遅れることに伴って発生することが想定されるペナルティーは含まれているのか？

・営業利益に今回計上したのは、追加の製造コストである。

・引き渡し時期が遅れることに伴って想定される最大限のペナルティーについて、FPSO については前年度に、ドリルシップについては今回の決算に織り込んだ。ただし、それらの金額はさほど大きいものではない。

2. F-LNG・海洋構造物事業の今後について検討するとのことだが、具体的には？

- ・上記事業の軸として考えている SPB タンクについては、LNG 船向け等の将来的な需要が存在している。しかし問題は、その需要が顕在化する時期であり、この点も含め、あらゆる可能性を排除せずに、抜本的な対策を検討する。
- ・コーポレートを中心として、必要と思われるあらゆるリソースでその対策検討に取り組むこととなる。

3. 無配予想について

① 無配が実現すると、いつ以来のことか？

・2009年3月期以来で8期ぶり。

② 単体決算の状況は？

・今期の単体決算見通しは若干の赤字である。今回の悪化は営業利益が大きな影響を受けるが、関係会社からの配当等の金融収支があるので、最終損益では営業利益悪化ほどの影響はなく、分配可能利益は確保している。

・一方で、連結決算における業績悪化と財務基盤を鑑み、無配予想とした。

③ 来期の配当見通しは？

・悪化要素を今期で全て出し切り、来期は復配したい。

4. ボイラ事業で 30 億円の営業利益悪化予想となっているが、この要因は、前年度と同じ溶接不適合か？それとも新しい要因によるものか？
- ・ 同じ要因での悪化ではない。工事中の複数の個別プロジェクトでの採算悪化を織り込んだ。
5. 「グループ経営方針 2016」における営業利益率 7%の目標に対する、構造改革への取組み状況は？
- ・ 業績悪化への対策と共に、前向きな事業構造改革を積極的に進めている。将来の事業性に懸念のある SBU における再生・再編の区切りを 2 年と設定しており、適切な段階に結果を報告できる事項があると思う。
 - ・ また、IHI グループ全体として、アジアを中心としたグローバル化への取組みや IoT を活用した事業展開について議論・実行を行っており、これらについても、できるだけ早い段階で説明したいと考えている。

以上